

## 出張報告

### 「国際比較神話学会」

2013年5月15日から17日にかけて、ドイツのテュービンゲン大学において、第7回国際比較神話学会議（国際比較神話学会、テュービンゲン大学共催）が開催され、出席し、研究発表を行ってきた。

#### （1）学会について

国際比較神話学会 (International Association for Comparative Mythology) は、ハーバード大学の Michael Witzel 教授を会長とした国際学会である。2006年にハーバード大学と北京大学の共催により、北京大学で International Conference on Comparative Mythology が開催され、その席上、本学会の設立が決まり、2007年に正式に設立した。

本学会の目的は次のとおりである。

- ・先史時代から、儀礼や考古学上の遺物、宗教のなかに見いだされる神話のさまざまな姿を文献学、言語学、遺伝学、その他関係諸科学を用い研究する。
- ・すべての人類の神話の広がりや起源を研究する。失われた神話と現存の神話を比較し、その特殊性と起源を明らかにする。
- ・世界の危機的な状況にある神話の保存に向けた取り組みをする。
- ・論文や書籍等の刊行を通して、これらの研究成果を公開する。講義や討議を目的とした公式な会合を主催する。インターネットやその他のメディアを通じた通信教育を提供する。その他の教育方法によるカリキュラムを開発する。

2007年にエジンバラ大学で開催された第1回の会議にはじまり、毎年世界各国で国際会議を開催している。本学でも2009年に第3回の会議を開催している。

#### （2）第7回会議について

今回の会議は、ドイツのテュービンゲン大学で、日本学の講座が受け入れとなった。大会責任者の Klaus Antoni 教授は、古事記のドイツ語訳を2012年に刊行しており、本学とも大変縁の深い人物である。

今回の大会テーマは Sources of Mythology: National and International Myths であり、このテーマに関連し、26名が発表を行った。基調講演の他、発表は7つのセッションで行われた。下記にセッション内容と人数を記す。

基調講演：Michael Witzel, “Marching east, with a detour : the cases of Jimmu, Videgha Mathava, and Moses”

- ・第1セッション, General comparative mythology and methodology (4人)
- ・第2セッション, National myths: Hungary and Romania (3人)
- ・第3セッション, National myths: Austronesia (2人)
- ・第4セッション, National myths : Japan (5人)

・ 第5セッション, Mythology in modern times (3人)

・ 第6セッション, Indo-European mythology (8人)

・ 第7セッション, その他 (1人、1人キャンセル)

このうち、基調講演の Michael Witzel 氏と第1セッションの発表者1名、第4セッションの発表者5名の計7名が日本神話に関わる発表を行っていた。これはこれまでの会議のなかでは多いといえる。大会責任者の Klaus Antoni 氏が日本研究者であり、氏の関連の大学院生なども発表者に加わっていることも関係するだろうが、日本神話への関心の高まりを感じた。

筆者は“Deities in Japanese popular culture”と題する研究発表を行い、現代のポップカルチャーにおける神々の描かれ方、および人間と神の関係性について分析した。神の描かれ方については、浮世絵、近代の歴史画などと



会議会場のテュービンゲン大学アルテ・アウラ (旧大学本館)

マンガ、アニメを通時的に比較した。聴講した学生の多くは日本学を勉強しており、ポップカルチャーへの関心がきわめて高かったため、そうした若い学生からの質問を多くうけることとなった。

なお、本会議の内容は2014年に Klaus Antoni, David Weiß (Eds.) *Sources of Mythology*, Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften として刊行されている。

(平藤喜久子)